2026 年 8 月 13 日大雨による真砂バプテスト教会の復旧状況と今後について

（第二報）2026 年 10 月 31 日

1. お祈りとご支援への感謝

8 月 13 日から 14 日にかけての大雨により、真砂バプテスト教会の半地下にある礼拝堂が床上約 60cm まで浸水する大きな被害を受けてから、2 か月余りが経ちました。

被災以来、国内外の教会や諸団体、地域の方々、友人・知人をはじめ、本当に多くの皆さまから、お祈りと励まし、温かいご支援をいただいてきました。今もなお、多くの方々が私たちのために心を寄せ、支えてくださっています。また、被災直後から復旧作業に駆けつけてくださった方々、必要な物品を届けてくださった方々など、さまざまな形でお支えくださったすべての皆さまに、教会員一同、心より感謝申し上げます。

突然の被災によって大きな困難の中に置かれましたが、皆さまから寄せられた一つひとつの励ましやご支援は、私たちにとって大きな力となっています。そして、こうした皆さまの温かいお支えを通して、主が御手を伸ばし、私たちを支えてくださっていることを覚え、励まされています。

この第二報では、第一報以降の復旧状況と、明らかになってきた課題、そして今後の教会の歩みについてご報告いたします。

2. 現在までの復旧状況

被災直後から、近隣の教会からお借りした発電機でポンプを動かして排水を行い、浸水した家具や備品の搬出・廃棄、高圧洗浄などを進めました。多くの方々のご協力により、短期間のうちに排水とひとまずの清掃を終えることができました。また、被災直後の日曜日から、浸水を免れた 1 階で礼拝をささげることができたことは、私たちにとって大きな支えとなりました。

その後、床下への浸水も確認され、残った水の排出と乾燥を続けています。専門業者による調査では、床や壁、壇上、電気設備などの被害も明らかになりました。椅子や講壇などの家具類はほぼすべて廃棄せざるを得ず、音響機器やオルガン、ピアノなども大きな被害を受けました。現在、保険金請求の手続きを進めるとともに、礼拝堂の使用再開に向けた復旧工事を進めています。

この間、お借りした折りたたみ椅子を 1 階に並べ、毎週の主日礼拝を続けてきました。また、地域の親子を対象とした集まりなども、可能な範囲で再開しています。

そしてこのたび、必要最小限の修理によって、11 月から礼拝堂での礼拝を再開できる見込みとなりました。被災前の状態に完全に戻るわけではありませんが、再び礼拝堂に集って礼拝をささげられることは、私たちにとって大きな喜びです。

3. 調査を進める中で分かってきたこと

専門業者による調査を通して、今回の被害が想像以上に大きく、礼拝堂を元の状態に戻すには、大規模な復旧工事が必要になることが分かりました。

また、今回の被災を通して、半地下の礼拝堂が抱える浸水リスクを改めて認識しました。以前にも床上約15cm

の浸水がありましたが、今回は約 60cm に達し、被害も大幅に拡大しました。

今後も現在の礼拝堂を使い続けるには、内装の復旧だけでなく、浸水・排水対策や電気設備の安全確保、荒天時への備えなどが必要です。しかし、停電によって排水ポンプが停止するなど、対策を講じても再浸水の危険性を完全になくすことはできません。実際、9 月の台風や長雨の際には、再び浸水するのではないかという不安の中で、気の抜けない日々を過ごしました。

さらに、建物の老朽化や維持管理上の課題に加え、半地下特有の湿気やカビによる健康への影響も懸念されています。実際に体調の不調を訴える方もおられます。また、緊急時の安全な避難経路の確保など、建物の構造に関わる課題も明らかになってきました。

こうした状況を通して、私たちは単に被災前の状態に戻すのではなく、これからもこの会堂を安全に使い続けることができるのか、改めて考えるように主が導いてくださっていると受け止めています。

4. これからの会堂について

こうした状況を踏まえ、私たちは単なる原状回復ではなく、これからの教会の働きにふさわしい会堂のあり方について、祈りつつ話し合いを重ねています。

現時点では、将来の会堂について具体的な方針はまだ決まっていません。現在の建物を改修して使い続けることや、現在地での建て替え、新たな土地への移転など、さまざまな可能性を検討しています。いずれも課題があり、相応の費用が必要となるため、教会全体で祈りと話し合いを重ね、専門家の助言も受けながら、進むべき道を見定めていきます。

一方、将来の会堂について検討を進める間も、安全に礼拝をささげられるよう、現在の礼拝堂の復旧工事を進めています。11 月から礼拝を再開する予定ですが、これは長期使用を前提とした大規模な改修ではありません。建て替えや移転の可能性も見据え、安全確保を優先しながら、必要最小限の修理にとどめ、費用を抑えて進めています。

私たちが願っているのは、単に建物を元に戻したり、新しくしたりすることではありません。これからもこの地域で、あらゆる方々と共に礼拝をささげ、交わりを深め、福音を宣べ伝え続けるために、どのような会堂がふさわしいのかを、祈りつつ見極めていきたいと願っています。

5. 私たちが願っている教会の姿

私たちは、「主の食卓をともに囲み、キリストのからだを建て上げ、神の国を目指して歩む神の家族です」という理念のもと、「礼拝を中心として―すべての人に礼拝を、すべての人と礼拝を―」というビジョンを大切にしてきました。

教会とは、単なる建物ではなく、イエス・キリストを信じる人々が集まり、共に礼拝し、支え合いながら歩む「神の家族」です。そして会堂は、その家族が共に礼拝をささげ、食卓を囲み、交わりを深め、地域に福音を伝えるための大切な器です。私たちは、子どもから高齢者まで、国や文化の異なる方々が共に集い、地域の方々も安心して訪れ、キリストの愛と福音に触れることのできる教会でありたいと願っています。

今回の水害は、これまでの会堂の課題と改めて向き合う機会ともなりました。この地で育まれてきた礼拝と

交わり、福音宣教の働きを次の世代へと受け継いでいくために、どのような会堂がふさわしいのか、主のみこころを祈り求めながら、教会全体で考えています。

6. ご支援について

10 月現在、国内外の皆さまから寄せられた支援金は、約 1,100 万円となりました。これほど多くの方々が私たちのために心を寄せ、ご支援くださっていることに、改めて心より感謝申し上げます。

お寄せいただいた支援金は、当面の復旧と、今後の会堂の改修・建て替え・移転などに必要な整備のため、大切に用いさせていただきます。

現在、保険による補償額や今後の方針が定まっていないため、最終的な必要額や支援の目標額はまだ設定していません。方向性と必要な費用が明らかになった段階で、改めてご報告いたします。

7. お祈りください

水害からの復旧と、これからの教会の歩み、そして教会の将来に関わる大きな決断のために、引き続きお祈りください。特に、会堂の将来について主のみこころを求め、教会が心を一つにして歩めるように、また、必要な知恵と助け手、さまざまな必要が備えられるように、お祈りいただければ幸いです。

今回の水害によって大きな困難の中に置かれましたが、私たちは次のみことばを心に留め続けています。

「私は倒れても起き上がる。私は闇の中に座しても、主が私の光だ。」（ミカ書７章８節）

まだ先の見えないことも多くありますが、主が私たちの光であることを信じ、その導きを祈り求めながら、一歩ずつ歩んでまいります。これまで共に祈り、支えてくださったすべての皆さまに、改めて心より感謝申し上げます。

真砂バプテスト教会　教会員一同
牧師　倉嶋新
副牧師　荒川紀子
国内派遣宣教師　永井創世

【支援金送金先】

◎ゆうちょ銀行　（記号）10520　（番号）38636501
　口座名　日本バプテスト教会連合　真砂バプテスト教会

◎ゆうちょ銀行以外からの口座振込
　（店名）058　ゼロゴハチ　普通（番号）3863650

◎クレジット献金（日本バプテスト教会連合特設サイト）
　https://rengo.ne.jp/2026-heavy-rain-disaster-masago-church-support/

＊領収書・受領確認等が必要な場合は、下記までご連絡ください。
　mbc.zaimu@gmail.com　　真砂バプテスト教会 財務

被災ごみの搬出





礼拝堂の点検




1 階での礼拝の様子




地域に向けた活動



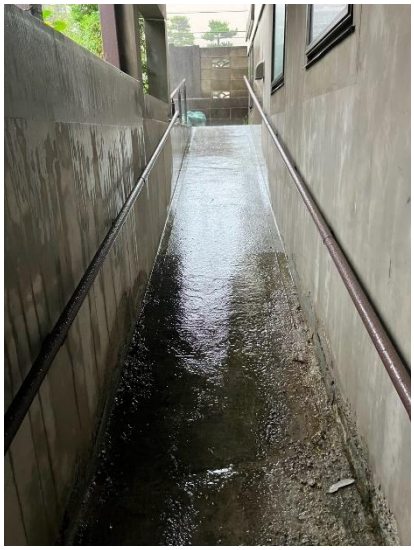
夏のこどもお楽しみ会



台風 25 号（9 月 21 日）







The Church Did Not Stop!

